

「日本政府がウクライナ問題に便乗するかのよう
に、軍備増強・平和憲法改悪を推進していることに抗議します」

私たち西小倉めぐみ教会は、小さな教会です。重い病や障がいを抱える人、ひきこもりがちな若者、そしてその家族が多く集っています。そのひとりひとりの命を大切にする立場から、社会の課題にも取り組んでいます。

今、私たちはウクライナでの戦争を目のあたりにしています。そしてかなり早い段階から、ウクライナ政府や近隣各国、民間のNGO団体が避難民の人命救助活動を展開し、平和活動を続けていることを想います。

もしこのように、かつての太平洋戦争で日本の為政者たちが、「国体護持」よりもひとりひとりの命を優先していれば、沖縄の地上戦や、東京・大阪はじめ全国各地での空襲、広島・長崎の原爆、無謀な戦争での多くの死は無かったはずでした。しかし今日まで、日本政府は自国民とアジアの人々に戦後補償を行わず、日本に来る難民に対しても人権保障を怠っています。

その日本が、平和憲法を放棄して、軍備増強により近隣諸国との緊張を加速させ、新たな軍事基地を沖縄辺野古に作ってゆくことは、かえってまた悲惨な戦争を招くことにならないのか、と思うのです。

併せてミャンマーやシリア、イエメンなどでの内戦が国際社会から忘れられることなく、また世界のあらゆる人道危機の中にある人たちに、神様の救いの御手が差し伸べられることを願うものです。私たちは聖書の示すシャローム・どこにも傷のない平和、ひとりひとりの命と人権を尊ぶ立場から、以下の抗議をいたします。

一、私たちは、日本政府がウクライナでの戦争を口実にして軍備増強を行うことに抗議します。

一、併せて、9条をはじめとした憲法改悪のうごきに抗議します。

2022年5月8日

宗教法人日本基督教団 西小倉めぐみ教会
教会員一同
代表役員(牧師) 棚谷直巳